

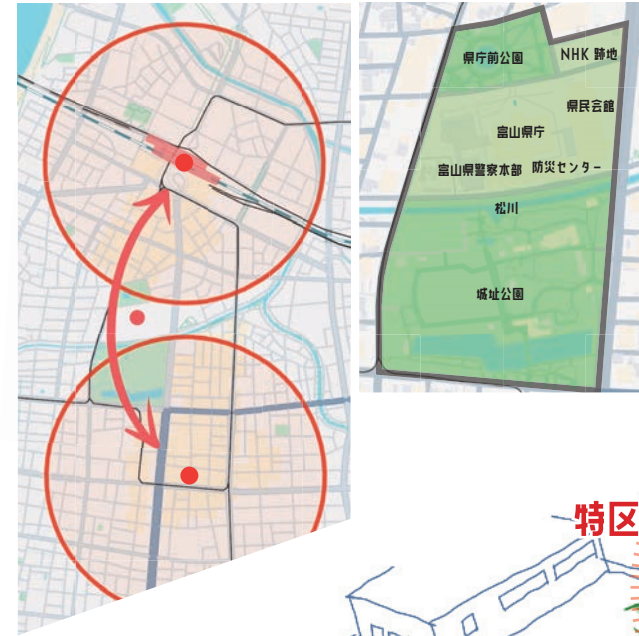
# THE FUTURE HISTORY PARK

過去、現在をつなぎ、未来を発信する都市公園

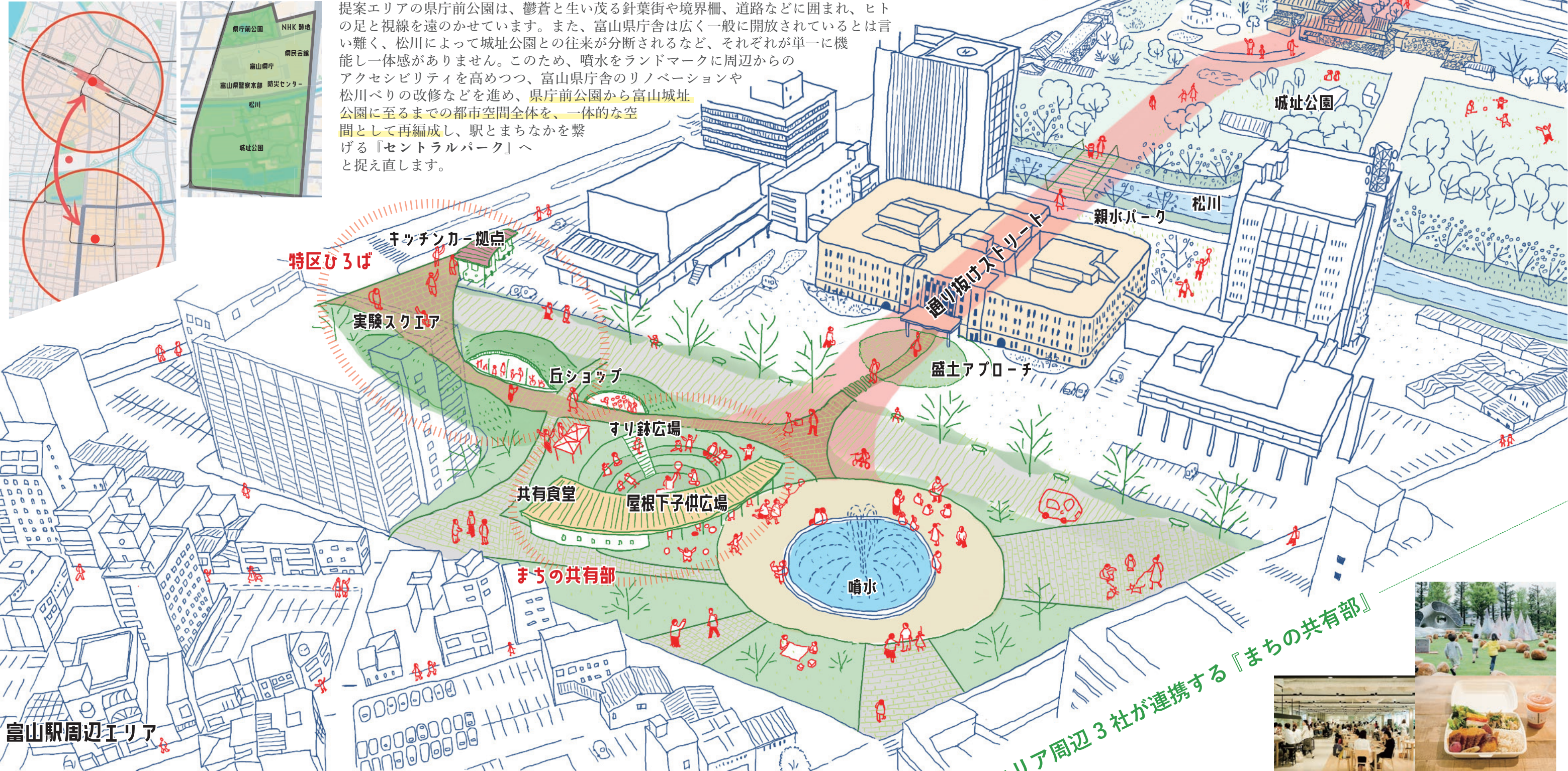
様々な実験を受け入れる「特区ひろば」、公園を自分のものとするきっかけに「まちの共有部」、県庁の「通り抜けストリート」、松川べりの「親水パーク」を整備し、既存資源の魅力を最大限に活用することで、公共施設を公共空間化し、世界に「先進都市富山」を発信するシンボルパークを目指す。

対象となる県庁周辺エリアは、「富山駅周辺エリア」と「中心商店街エリア」の間に位置する。富山市の中核を形成する市街地エリアであり、歴史資源や水と緑にめぐまれた、文化・自然の充実したエリアです。そのポテンシャルを存分に活かすため、駅と中心商店街を繋ぐ『セントラルパーク』としてエリアを再編し、公園自体の活性化につながる県民が自由に活躍できる『特区ひろば』を設定、その管理と運営をエリア企業が連携しながら担い、積極的にまちに関与する関わりしろとして『まちの共有部』を設けます。

## 富山駅とまちなかを繋げる『セントラルパーク』



提案エリアの県庁前公園は、鬱蒼と生い茂る針葉樹や境界柵、道路などに囲まれ、ヒトの足と視線を遠くさせています。また、富山県庁舎は広く一般に開放されているとは言い難く、松川によって城址公園との往来が分断されるなど、それぞれが単一に機能し一体感がありません。このため、噴水をランドマークに周辺からのアクセシビリティを高めつつ、富山県庁舎のリノベーションや松川べりの改修などを進め、県庁前公園から富山城址公園に至るまでの都市空間全体を、一体的な空間として再編成し、駅とまちなかを繋げる『セントラルパーク』へと捉え直します。



## 多様なアクティビティを創出する『特区ひろば』

全国各地で公共空間活用が進められていますが、占有物や行為に制約のあるケースも多く、特に、提案エリア周辺のように公共空間の多いエリアは、行政側が積極的にハードルを下げなければ、エリアでの好循環は生み出せません。このため、提案エリア内に、占有条件や消防、保健衛生といった制約を極力排除した『特区ひろば』を設定し、使用にあたっての手続きも簡素化することで、誰もがいつでも多様なアクティビティの表現や実現ができる場とします。

画像引用：Open ALIVE+RALLY PARK / 勾当台公園の仮設建築 <https://www.open-a.co.jp/works/4850/>



エリア周辺3社が連携する『まちの共有部』

提案エリア周辺では、県や市、北日本新聞社などが各々にオフィスや食堂などの機能を保有しています。また、ビジネス街でありながらパソコン1つで気軽に仕事をできる環境がない、雨天時に遊べる子供向け施設がないといった声も多くあり、まちの核としての機能不足が見られます。このため、県・市・北日本新聞社が連携しながら、食堂やワークスペース、全天候型の子供向け施設などを整備するとともに、当該機能を活用した企業間・利用者間交流を促すプログラムを展開する『まちの共有部』づくりを進めていきます。

画像引用：(下左) Kasako Nita 働きの社食に訪問「マッシュホールディングス」2017年6月23日 [https://newsline.net/detail/04\\_giza/eb/6746a76c3/](https://newsline.net/detail/04_giza/eb/6746a76c3/)  
(上) 美濃島区、ゴールドウインが子ども向けイベント開催 地、水、火、風、空をテーマに5組の建築家とコラボ 2022年04月26日 <https://www.wjapan.com/articles/1355985/>





# 富山駅とまちなかを繋げる『セントラルパーク』

## 徒歩移動の限界点“600m”の課題

環境省とともに富山市が実施した調査では、徒歩移動の限界点＝“600mの壁”が存在することが分かっています。対象エリアは、富山駅とグランドプラザを起点とした600mの境界に位置し、中心市街地全体で徒歩回遊を促進するための重要なエリアです。

富山駅周辺来訪後の徒歩移動

グランドプラザ周辺来訪後の徒歩移動



画像引用：株式会社 unerry - 中心市街地の移動と賑わいを「見える化」〜「ウォーカブルなまちづくり」への挑戦 徒歩移動の限界点“600m”を突破せよ！ 2023年11月22日 [https://www.unerry.co.jp/case/toyama\\_city/](https://www.unerry.co.jp/case/toyama_city/)

## 600mの壁を繋ぐ文化と景観の歩行体験

ありたい姿1：幸せあふれるウェルビーイングな場所へ。 / ありたい姿2：まちがつながり、一体となる。

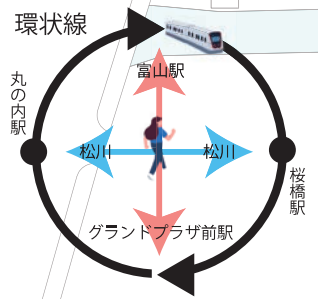
県庁前公園周辺エリアは道路や施設によって細かく分断されています。全体を一体的な『セントラルパーク』として再編し、**県庁前公園から城址公園へと抜けるストリート**を計画します。パークの中は細かく目的地が切り替わり、**ランドスケープのシークエンス**が形成されることで、2極化している富山駅周辺エリアと中心商店街エリアの期待感をつなぎます。

## 松川べりを親水パーク化して懐を広く

ありたい姿1：幸せあふれるウェルビーイングな場所へ。 / ありたい姿2：まちがつながり、一体となる。



松川は富山駅周辺エリアと中心市街地エリアの境にあります。県庁舎南側から松川までの空間を一体化するため、**南階段から松川べりを緩やかな斜面として繋がり**を生み出します。同時に、松川沿いの東西方向への歩行空間を整備し、**通り抜けストリート**と合わせて市内環状線を東西南北に繋ぐ要として機能させることで、**外側を走る公共交通+南北に歩ける歩行空間による回遊性の高い街**を目指します。



## 表裏を作らないオープンな空間

ありたい姿2：まちがつながり、一体となる。

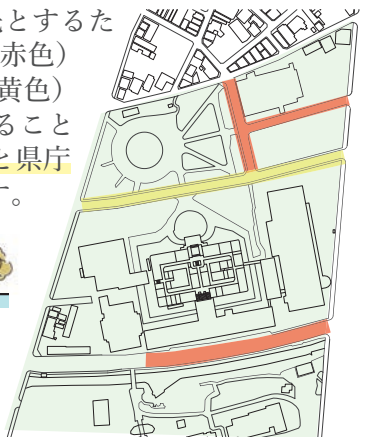
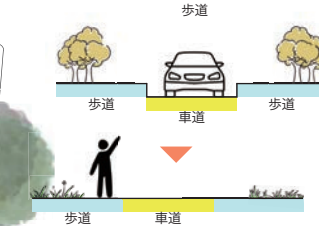
県庁前公園は四方を樹木と境界柵で囲まれ、視覚的にも物理的にも街から分断された空間となっています。また、樹木にすみつくムクドリ等の糞や羽で歩道環境が悪化し、衛生的にも人を遠ざけています。周囲の樹木や境界柵を減らし、**四方からの視認性を高め、誰もが立ち寄りやすく、内部の活動が見えるオープンな空間**とし、内外の交流を促します。



## 車道のレベル調整による道路空間の一体化

ありたい姿2：まちがつながり、一体となる。

エリア内を歩行者優先とするため、右図の既存道路（赤色）を廃止し、残す車道（黄色）も歩道とレベルを揃えることで、**広場全体の一体感と県庁機能の両立**を目指します。



## 県庁舎とグランドレベルが繋がる

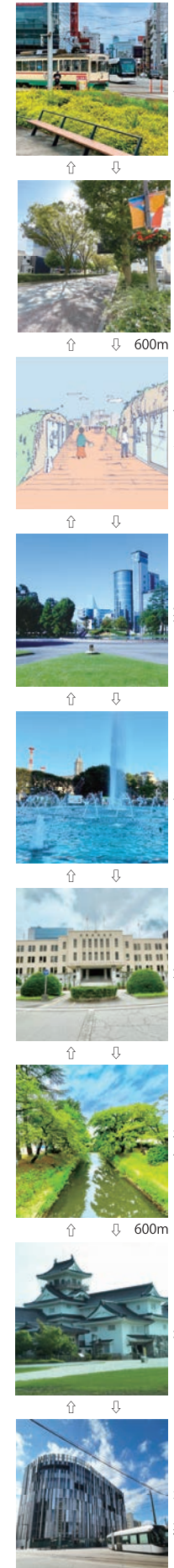
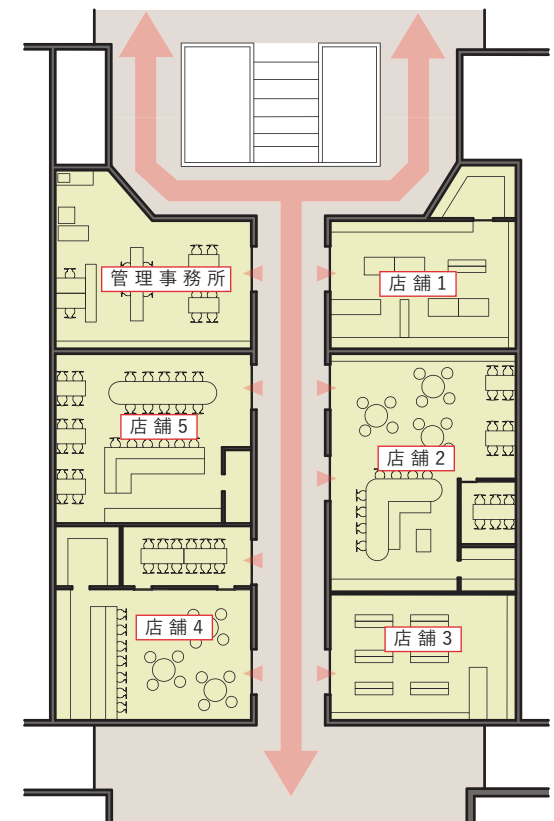
ありたい姿2：まちがつながり、一体となる。

親水パークの切土を活用し、**県庁舎の正面口から階段中腹までをなだらかな坂として繋ぎ**、県庁舎が公園の一部のように感じられる顔づくりをします。県庁舎が広場・松川と一体化することで、“まちを分断”する公共施設ではなく、“**まちを繋ぐ**”公共施設の体現を目指します。

## 県庁舎を“通り抜けストリート”として解放し、開かれた施設へ

ありたい姿2：まちがつながり、一体となる。  
ありたい姿3：関係人口を増やし、県内全域を活性化させる。

県庁前公園と城址公園を分断する県庁舎を、**常時通り抜け可能なストリート**として解放します。古くなった公園管理棟を、**県庁舎内に移すとともに、2階の中央廊下をアーケードに見立て、ショップやイベントスペースとして使用可能**にすることで、**県庁機能を保ちつつ県民が訪れやすく、親しみやすい公共空間へと再編**します。



富山駅 城址大通り 公園入口 広場 噴水 県庁舎 松川 富山城 中心商店街



# エリア周辺企業が連携する『まちの共有部』



## “食べる”と“働く”を兼ねたまちの共有食堂

ありたい姿2：まちがつながり、一体となる。/ありたい姿3：関係人口を増やし、県内全域を活性化させる。

県庁、市役所、北日本新聞社の食堂施設を統合し、平日は周辺企業、休日は来街者のランチ需要を取り込む**共有食堂**を新設します。会議や打合せで利用できる半個室空間をつくり、ピークタイムはまちのワークスペースとして解放します。周辺エリアで働く職員や会社員が「自慢したくなる・憧れる食堂」を目指し、周辺企業と来街者が食と仕事を通じて交わる空間とします。屋根下子供広場を眺めることもでき、栄養バランスを考えた子供向けメニューを用意することで、親子での利用もしやすい食堂にします。

## まちの共有防災拠点

ありたい姿1：幸せあふれるウェルビーイングな場所へ

災害時に防災の拠点として機能するよう、備蓄倉庫などの設備を確保します。年に1回、特区広場を利用した防災キャンプ、炊き出し体験、非常食体験などを開催することで、エリア全体の防災意識を高めます。



画像引用：(上) Chiyoo Sagae, 社会には食の理想が詰まっている社員食堂だからできること。vol.1 Wellbeingを実現するYahoo! Japanの社員。2019年8月26日 [https://www.r-sashin.com/feature/movement/sashiku\\_yahoo/#page-1](https://www.r-sashin.com/feature/movement/sashiku_yahoo/#page-1)  
(下) JUST FIT OFFICE.WeWork(クワイアーク)丸の内北口。2024年8月16日 <https://justfitoffice.com/buildings/6>

## まちの屋根下子供広場

ありたい姿2：まちがつながり、一体となる。/ありたい姿3：関係人口を増やし、県内全域を活性化させる。

富山は降水日数が多く、冬場は雪が降ります。さらに近年では年間で真夏日が80日を超え、1年を通して外で遊ぶことが難しくなっています。このため、小さな子供を育てるファミリー世帯のために、天候に左右されない半屋外の**屋根下子供広場**をつくり、インクルーシブな遊具を設置します。広場は食堂に隣接し、テラス席や窓側から子供の様子を眺められます。子供は、両親やエリアの企業、大人が働く姿を見て遊ぶことで、「働く」ことや社会との関わりに関心を持つことが期待できます。



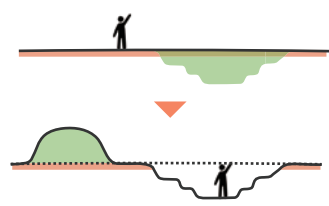
## 地形がつくりだす、すり鉢広場

ありたい姿1：幸せあふれるウェルビーイングな場所へ

周辺に開かれすぎていない安全・安心な場で子供を遊ばせて仕事をしたい、そんな要望にこたえるべく、地面を掘り下げて**すり鉢広場**をつくります。広場を掘った土は盛土として丘ショップの形成に活用し、無駄のない計画とします。



画像引用：Longwood Gardens, Inc./East Conservatory Plaza <https://longwoodgardens.org/gardens/conservatory-district/east-conservatory-plaza>



## “私”と“エリア”をつなぐシンボル

ありたい姿1：幸せあふれるウェルビーイングな場所へ

県庁前公園ではなく「噴水公園」の名で親しまれてきたように、公園の噴水はこの場所をイメージするシンボリックなものです。新たなエリアになった後も、誰もがこの場をイメージし、これまでの歴史とこれからの世代を繋ぐ象徴として引き続き継承していきます。

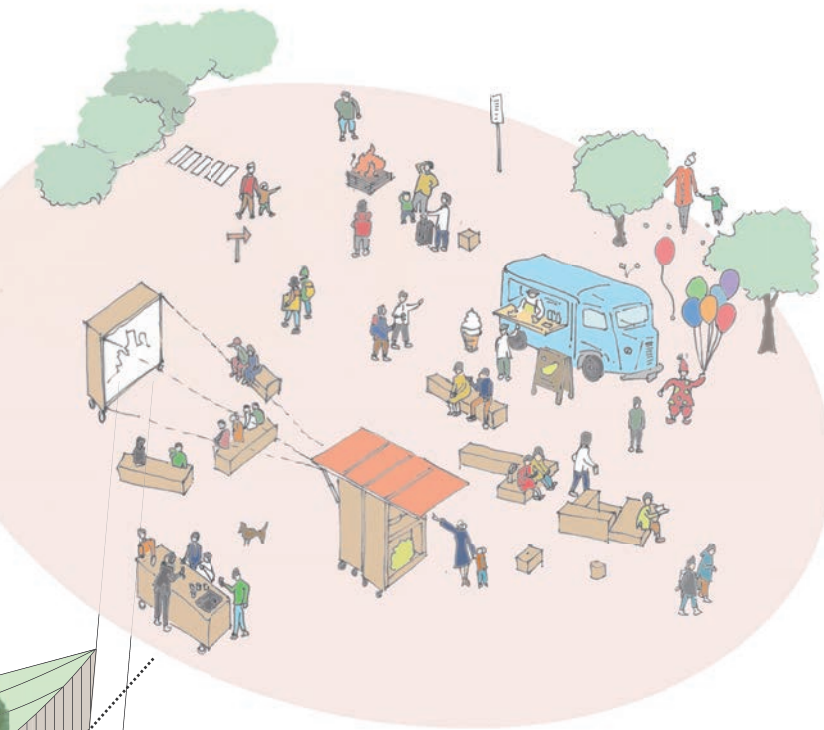
# 多様なアクティビティを創出する『特区ひろば』

## 県庁前をまちの特区に設定

ありたい姿2：まちがつながり、一体となる。/ありたい姿3：関係人口を増やし、県内全域を活性化させる。



旧 NHK 跡地から現在の県庁前公園のエリアは一体的な空間としたうえで、国家戦略特区の制度を活用し、通常は都市公園法や道路法などによって制限されていることが自由に実施できる「特区ひろば」を設定します。ストリートファニチャーの設置や焚き火、BBQ、キャンプ、屋台や三輪車での出店、ストリートパフォーマンスなど、試しに何かしたいというアイデアを止めることなくまちへ還元していきます。特に、実験スクエアには電源や水道等の設備を用意し、利用しやすい空間設計を行います。



## 立ち寄りキッチンカー拠点

ありたい姿2：まちがつながり、一体となる。/ありたい姿3：関係人口を増やし、県内全域を活性化させる。

県民会館駐車場の一部を広場と一体化し、キッチンカーが自由に停車できるスペースとして開放し、エリアに足を向け、留めるきっかけづくりをします。

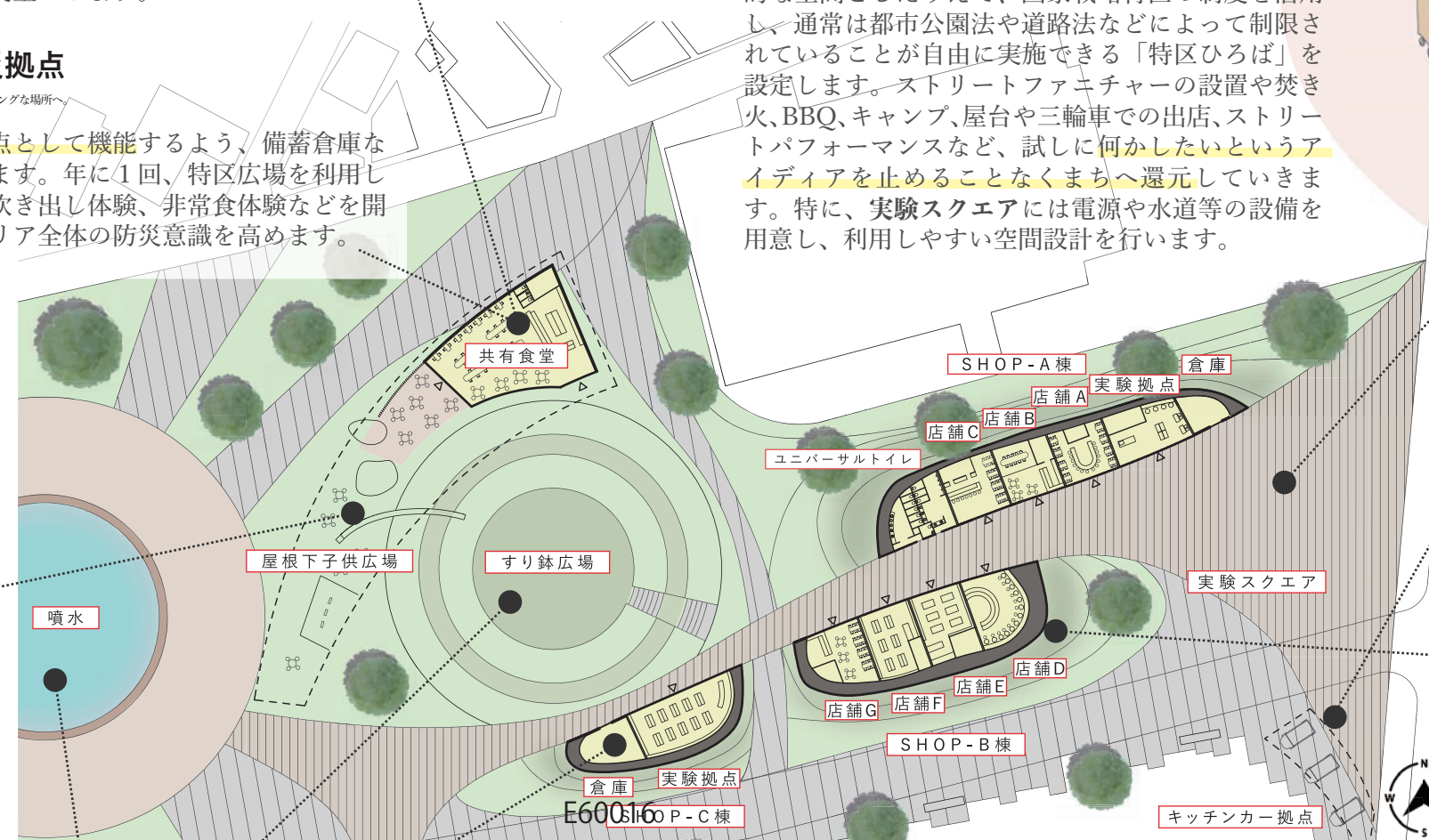


## 公園の中の丘ショップ

ありたい姿2：まちがつながり、一体となる。/ありたい姿3：関係人口を増やし、県内全域を活性化させる。



中心の広場と噴水に向かって、ゆるやかな芝生の丘が広がっています。丘には公園と一体化した食や雑貨などの**ショップ棟**になっており、ふらっと立ち寄りたくなる気持ちの良い空間が形成されています。ショップの広さは近隣の不動産会社へのヒアリングも踏まえ 20坪程度とし、テナントとして貸し出せる収益部とします。また公園内の古くなった既存トイレは廃止し、ショップ棟とともに子育て世帯が安心して利用できるユニバーサルなトイレを新設します。



## 周辺企業によるコアエリアの計画・管理・運営

ありたい姿1：幸せあふれるウェルビーイングな場所へ。/ありたい姿2：まちがつながり、一体となる。/ありたい姿3：関係人口を増やし、県内全域を活性化させる。

これらの実現に向けては、特区ひろばとしての民間活用を促すことからスタートし、“柔軟で段階的な”整備を基本とします。まずは県・市・北日本新聞社による任意のエリアマネジメント団体を設立し、運営等のベースとなる仮設コンテナや遊具などを設置、特区ひろばを利活用する民間事業者と対話しながら、エリアの価値向上につながるプログラムやイベント等を提供します。そして、屋根下子供広場などの公共施設は、DBO方式によって県が整備し、SPCも含めた運営体制で更なる取組みを進めていきます。その後、エリアでの採算性が見込め、関心のある民間事業者には敷地の一部を定期借地し、丘ショップに飲食や物販などの整備を促します。エリアに近接する県・市・北日本新聞社が計画当初から主体的に関わり、共有部のビジョンや基本構想を作成していくことを踏まえ、本提案においては県庁職員・市役所職員・北日本新聞社員のヒアリング等の協力を経ながら作成しました。

